



# 園だより 1月号

令和 8年 1月13日  
和歌山市立西和佐幼稚園  
園長 高石 知都

あけましておめでとうございます 本年もよろしくお願ひ致します

2026年、新しい年がスタートしました。お正月はどのように過ごされたでしょうか。年末年始をご家庭でゆったりと過ごすことは、子供たちにとっては、普段とは違った特別な時間だったのではないかと思います。

今日から幼稚園が始まりました。冬の自然に触れながら、今まで通り子供たちが楽しいことを見つけ、夢中になって遊び込めることが出来るよう取り組んでいきたいと考えています。

3学期は、5歳児にとっては最後の園生活になります。3歳児、4歳児にとっては進級する前の大切な学期です。短い3学期ですが、一人一人が自分の力を十分発揮できるように、意欲をもって遊びや活動に取り組めるように、職員一同、努めていきたいと思います。

今学期も保護者の皆様のご理解とご協力のほど、よろしくお願ひします。

## ◎鏡開き

正月の間、年神様が宿る場であった鏡餅を割り、無病息災を願いながら、お雑煮やおしるこ、ぜんざいなどにして食べるこことを鏡開きといいます。鏡餅の鏡とは、お餅の丸い形が昔の銅鏡に似ているから。お餅をお供えし、開き、食べることで「1年を幸せに過ごすための力を授けてもらう」という意味があるそうです。

鏡餅は、包丁を使わず、手や木づちなどで餅を割ります。これは、年神様との縁が切れないように、また刃物で切ることを嫌っていたとも言われています。鏡開きは、毎年1月11日に行います。(地域によって違います) これから1年間、家庭円満を願いながら、お餅のかけらも全て食べるのが良いとされています。園でも、子供達に鏡開きの由来をお話します。四季折々の日本の行事のいわれなどは、各クラスで、また時には全クラスで話す機会をもっています。それらに込められている人々の願いに、少しでも興味関心をもってもらいたいと考えています。

年神様とは・・・元旦に家々に新年の幸せをもたらすために高い山から降りてくる神様が「年神様」であり、「正月様」「歳徳神（としこくじん）」とも呼ばれているそうです。昔の人は祖先の靈が田の神や山の神になり、正月には年神となって、子孫の繁栄を見守ってくれているのだと考えていたそうです。



○きく組のアルバム写真撮影を1月19日(月)に予定しています。よろしくお願ひいたします。

○自園評価のアンケートをお願いします。保護者の方々からご評価いただきたいと思っています。ご協力よろしくお願ひします。

元気に始業式を迎えました！！

みんな元気に登園してくれました。  
また、3学期も楽しく過ごしましょうね。

みんなで「ぜんざい」をいただきました。



鏡開きをしました。  
この後、一人ずつ木づちで開いてくれました。

